

NEWSLETTER

No.5

岐阜大学国際交流室 1988年1月20日発行

私、私の国そして日本

Japanese hospitality

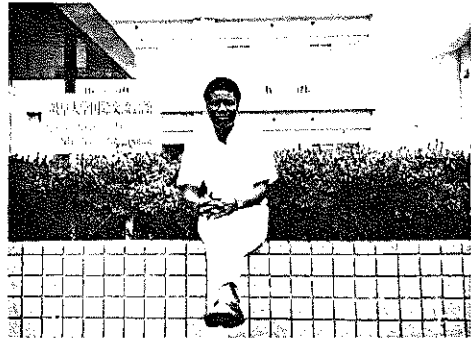
KUWORNU KAFUI KWAKU

日本のどこへ行っても、日本人は親切に私達外国人を迎えてくれます。特に、外国人が旅行をする時、その人には、ほんの少しの日本語しか話せなくても、その人を理解しようと努めてくれます。

私は夏休み、広島に住む友人を訪れました。その時でも、私にとっては初めての広島行きだったにもかかわらず、特に困ることもなく旅行できました。広島についた時、友人は彼の友達や先生を紹介してくれて、その人達が私のめんどうを見てくれました。私の為にパーティーを開いてくださったり、私が興味を持ちそうな所へ連れて行ってくださったり、学生も先生も自分の時間をさいて、私のためにいろいろしてくださいました。この親切な心は私をとてアットホームな気持ちにしてくれました。私はとても楽しくもっとそこにいたい気持ちがしましたが、時間がなく、帰らなくてはなりませんでした。とても残念でした。帰る時に、その人達は「また いつでも来たい時に来てくださいね。待っています。」と言ってくださいました。私は機会を見つけてまた行きたいと思っています。私の友達もそこで大変幸せに暮らしていて、彼らがどんなに親切に自分を扱ってくださるかを私に話してくれました。私も私の岐阜での生活を考える時、日本人はどこでもだれにも親切で思いやりがあると感じました。ですから、たとえこれからどんな所へ行こうとも、日本の人は親切だとわかっていますので、また他の所も行きたいものだと思っています。

岐阜では、子供達は私を見ると「ハロー、クロマティー。ハロー、クロマティー。」と言います。もし彼らが近くにいる時には、ただ、ここにこ笑うだけですが、遠くにいる時には私は手をふります。

私は、本当に日本での生活を楽しんでます。



農学部農学研究科（田名部）

日本：日系人の日本の印象

吉 夫 弘 ネルソン

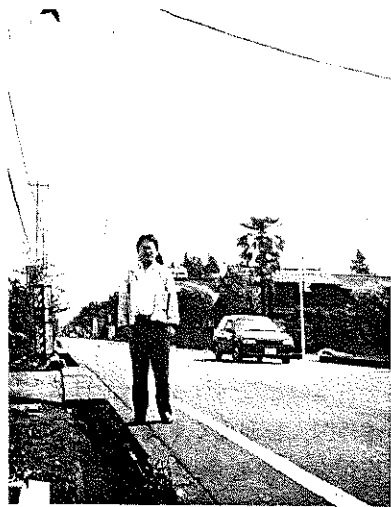
私はブラジルで生まれました。父親は日本生まれです。だから私は日系の二世です。今年の四月に日本へ県費留学生として来ました。一年間、大学病院の口腔外科で研修をします。

私は二世だから、日本人の顔をして日本語も話しますが、ブラジル人の生活に慣れていません。そしてブラジルの習慣は日本のものとすごく違っています。それで、初めは苦労しました。でも、だんだん慣れて来ました。初めはいろいろなハイテクノロジーを見ました。それらで生活を簡単にすることもできることを知りました。そして、日本人は新しいものと古いものをじょうずに混ぜて生きていると思います。

二世だから、外見は日本人でも、外国人の目で物を考えます。でも、日本人は私のことを外国人として扱わないし、日本式のやり方でやって当たり前とってしまうことがあります。でも、私は外国人のやり方でしかできないので日本人には変だと思われることがあります。また、私の目から見ると、日本人は友達どうしでもそれほど深く親しくしていないように思えます。泣きたい時に泣き、笑いたい時に笑い、怒りたい時に怒るようなことをせず、遠慮してつきあっているように思われます。僕の日系人ではない友達で、日本人について文句を言った人がありました。日本人は外国人の顔をした人には良い面だけ見せて特別扱いをする、もっと普通にしてほしいと。

日本では治安の問題はないし、自分より先に他人のことを考えて生活しますので、大きな問題は起こらないかもしれません。でも、ブラジルは反対で、治安の問題はあるし、まず他人より自分のことを考えて言ったりしたりします。だから生活するのに多くの問題はあるかもしれません。でも、したいこともせず、言いたいことも言わない生活が本当の人間らしい生活でしょうか。私の国は移民した人が作っている国ですから、いろいろな文化が混じり合っています。日本はひとつの文化と伝統しかない国です。ですから考え方はだいたいひとつなのでしょう。だから、自分のことを考えなくても、社会の中の自分を考えたらそれでよいのかもしれませんが。どちらが良いとか悪いとか言うのではなくて、外国人の目から見てこういう所が文化の違いとして不思議に思えるところです。

さて、日本には四つの季節があります。今までに三つの季節がありました。始めは春でした。いっぱい花が咲いて、すばらしい香りでした。桜も見ました。ひとつの特別な桜、うすずみ桜は大きくてすばらしく見えました。夏になって、気温はブラジルのようになりました。でもブラジルと違ってむしあつく、私にとってはあまり気持ちよい季節ではありませんでした。台風もありました。秋になりました。春みたいにかわいいけど今度は紅葉でした。赤と黄色と緑のコントラストのすごく美しい景色になりました。気持ち



の良い気温でした。食べ物もとてもおいしかったです。今は冬。毎日寒いです。今年はいつもとより早く雪が降りました。雪はブラジルにはありません。こうして季節の移り変わりを見ました。私はできたら春と秋は日本に住んで、夏と冬はブラジルに住めたらと思います。

医学部口腔外科（岡）

北海道での夏休み

クララ 堀川（アルゼンチン）

私は今年の夏休みに北海道へ行きました。ホームステイ・プログラムに参加して、200人の留学生と東京から出かけました。

フェリーの中で、初めは知らなかった人ですが目を合わせ、スマイルひとつで、言葉のないあいさつで、自然な交流が始まりました。一日中いろいろな人とお茶を飲んだり話をしたりして、あっという間に過ごしました。

朝の6時に苫小牧に着いて、ここからみんなグループに別かれました。ウテさん、マイケルさん、ロバートさん、サイさん、ベックさん、フローレスさんの6人の留学生はいっしょに小樽に行きました。行くまでの間、草原や町を通りすぎ、北海道はとっても広くて、建物や家が新しく変わっていると感じました。

二週間の間、ガラスの工場や札幌の町や伝統的な場所に行ったり、札幌ラーメンやジンギスカンを食べたり、盆踊りに行ったりしました。盆踊りのために着物を貸してくれましたが、背の高いマイケルさんの場合は着物が短かくて、くつをはいているすねが半分ぐらい出てるままおもしろく踊っていました。

市役所や学校にも連れて行ってもらいました。どこへ行っても自己紹介とスピーチが中心になって、七人の留学生はがんばりましたが、どうしても肩がこりました。

ある日パーティーが開かれて、おいしいごちそうがいっぱいあり、食べ始めておなかがいっぱいになって楽しく気持ち良くなって来て、さて他の人といろいろ深い話をしようと思っていたら、「さあ、皆さん今日は。これで終わりのあいさつをお願いします。」と言われて、お酒が飲めないのかっこうをつけるために持っていたワインのグラスを落としそうになりました。

また、いろいろな学校に行くと音楽のバンドが鳴り出して、大変な歓迎会が開かれますが、ただ外国人が来るだけのためにはちょっとおかしいと思いました。それに、子供にそういうふう外国人のイメージを伝えるのは良いのでしょうか。こういう形式的なことではなく、もっと深い本当に友達になろうという交流が始まるともっと良いのではないのでしょうか。でもこういう交流の中にも、日本人が国際交流をすすめて行こうとする努力が私達にもわかりました。

この二週間、いろいろなことをして北海道で暮らしました。さわやかな人達に会い、帰る時にはがらかな顔でいろいろ冗談を言いながら笑ったざっくばらんな駅のおじさんの顔は、たぶん長い間忘れられないだろうと思います。北海道で会った人達に感謝しています。

教育学部生物学科（松岡）

サンディエゴ大学に留学して

高橋 恵子

私は、米国カリフォルニア州のサンディエゴ州立大学に、10ヶ月間程留学していました。サンディエゴは、温度が少なく、やしの木と青い空が似合うとても過ごしやすいところです。初めての海外生活のためか全てが新鮮で、毎日が驚きと感動の連続でした。大学での授業は、宿題やクイズとよばれる小テストに追いまくられ大変でしたが、とても興味深いものでした。それは、クラスの中で討論の場が多く、活気づいたものだからです。「彼らが何を言っているのかわからない」「英語でうまく話せない」などといってぼーっとしてはいられません。とにかく、自分の考えをもち、それをどんどん自分から出していきました。そうしなければ、誰も自分の存在を認めてくれないからです。同じことが、日常生活の中でもいえます。とにかく、待っては何も始まりません。そのかわり、自分から飛びこんでいけば、いつもそれなりの手ごたえがありました。その1つに、自分から友達の中に入って行って始めて彼らも私を受け入れてくれたように思います。



日常生活では、大学の寮に入り彼らと一緒に生活しました。彼らは月曜日から木曜日までは一生懸命勉強しますが、金曜日は“Friday Party”をして、騒ぎます。ときには木曜日からPartyが始まることもありました。飲んで騒ぐだけのPartyやDance Party, Beach Party……いろいろなPartyに行きました。平日は勉強、週末はPartyやどこかに出かけ、息つくひまもなかったのですが、とても充実していました。アメリカでの私は、エネルギーであり行動的でした。興味があることややりたいことを、自分のペースでやっていたように思います。それができるのがアメリカの社会であり、私が大変好きな点でもあります。わずか10ヶ月間という短い間でしたが、いろいろな人に出会い、様々な価値感や考え方に触れることができました。グランドキャニオンをバックパック（リュックサック）を背負って歩きまわったことなど、すばらしい思い出もたくさんできました。今、ふり返るとそれもみな夢のような気がします。

教育学部英語英文学科4年（藤掛）

アラスカ

長谷川 友美

私は十ヶ月間、アラスカにいました。最初の九ヶ月間は、アラスカのどまん中にあるフェアバンクスという町で、大学に行って勉強をしていました。その九ヶ月間のほとんどは寒くて暗い冬でした。寒いのは慣れたせい、神経が鈍ったせい、気にはなりませんでしたが、暗いのは耐え難かったです。“I don't really miss Japan. I just miss the sun.”というのが、私の口癖となっていたものです。そんな暗いフェ



アバックスの冬にも、1つの救いがありました。それは、オーロラです。あの不思議な現象を見ただけで、他の不自由な条件も忘れて、アラスカに来てよかったと思いました。

長い長い冬の後には、地球上のどこの春よりも美しいであろうと思われる春が来ます。草木の緑が一斉に芽吹き、太陽もほとんど一日中照るようになります。私のアラスカ最後の一月間は、そんな一面緑に囲まれた太陽がほとんど沈まない季節でした。その頃私は大学の授業から解放されて、大きなバックパック1つを背負って、アラスカ中をまわっていました。南はカナダに接する海岸線沿の町々、西は樺太へとつながるアリューシャン列島、北は北極圏を超えた極地にあるエスキモーの村々、そして内陸部では北米最高峰マッキンレーのふもとにある国立公園など、一月間で行けるところは全て行ったつもりです。そこで私が見たものは、最近よく旅行会社が出しているアラスカツアーパッケージのパンフレットに載っているような、氷河や野生動物やパイプラインやマッキンレー山などもありますが、パンフレットにはない、そこに住む人々があります。日本の4倍もの面積を持つアラスカには、白人、エスキモー、インディアン、アリュート人、が暮らしています。彼らは、日本から一人でやってきた少女を、とてもあたたかく迎えてくれました。

教育学部英語英文学科4年(松川)

留 学 を 前 に し て

宮 崎 美 保

生肉を食べるエスキモー、堅氷に閉ざされたツンドラ、一日中太陽がのぼらない冬、そして白夜……。

これらは、2、3年前まで私が抱いていたアラスカのイメージです。その頃、植村直己著の「北極圏一万二千キロ」を読み終えたばかりで、こんな所、とても現代人が住む場所ではないなあ、と思っていたのです。この程度の知識なのですから、アラスカがアメリカ合衆国の一州であることなど、当然知らなかったのです。それらはあたかも、外国人が日本のことを中国



の国の一部で、まだ着物を着て、ちょんまげを結って歩いている、と思っているのと同じようなものでした。つまり「北極圏一万二千キロ」は、あくまでも北極圏のことであって、アンカレッジをはじめとするもっと南の地域では、日本の都市と同じ位、近代化されていることを、アラスカからの留学生や、アラスカに関する資料から、次第に知らされていきました。

現在、岐阜大学では、サンディエゴ大学、ブラジルのカンピーナス大学、アラスカ大学、その他いくつかの中国の大学と姉妹提携をしているそうですが、今回、なぜアラスカを選んだか、といえますと、幸運にも、このアラスカ大学に定員の枠があったからです。そしてまた、アラスカという所は、日本人がめったに行きそうにない場所だと思ったからです。一般の人（以前までの私も含めて）の多くは、カナダより南をアメリカ合衆国と思っているでしょうし、アメリカといえばニューヨークの摩天楼、カリフォルニアの青い空と輝く太陽などを想像するでしょう。しかし、これらは私にとって、あまりにもアメリカすぎるのです。

また、場所は何処であれ、今回の留学を決心するにあたって、いくつかの不安がありました。まず第一に、語学力のことです。農学部のため、専門に入ってから英語の授業というものがあ

せんから、積極的に英語の雑誌を読んだり、ラジオを聴いたりはしていたのですが、どうしても限界を感じていました。第二に、今まで一人暮らしをしたことがないため、突然異国の地で、一人で生活していきただけの精神力があるのかという問題。第三に、農学部に所属しているとはいえ、近年話題となっている日本の農業について、外国で人前で話せるほど、知識がないことなどです。これらのことは、日本の中にも、本人の意志次第でどうにでもなることではあります。留学経験がなくても、流暢に英語を話す人は、私のまわりにも大勢いますし、就職してから一人暮らしを強いられるかもしれませんし、農業の勉強も、当然、今しなければなりません。でも私自身、非常に不器用な人間であるため、仮に普通に卒業して、2年位働いたとしても、どの問題も、たぶん今とそれほど変わらないままにいるように思ったのです。しかし、いざ行くとすれば、イヤでも、そういった状況に身を投じなければなりませんし、正直なところ、こんなチャンスは一生のうち、それほどあるものではないとも思ったのです。

結局、このようにして留学をする決心がついたわけです。アラスカでは、私の専攻の畜産(農業)経営学を勉強することはもちろんのことですが、それと同時に、何か別のことも学ぶことができたから幸いです。

農学部家畜産学科4年

ウォッチングがはやってる

白木恵美子

最近、よく〇〇ウォッチングという言葉を目にします。バードウォッチングは言うまでもなく、街頭ウォッチング、人間ウォッチングといった「誰にでもできて、手軽で、身近なウォッチング」がうけています。

私も2年ほど前から、双眼鏡を片手に身近な鳥を追いかけています。人と待ちあわせるほんの5~10分間、あるいは、第一食堂のあくのを待つほんのわずかな時間でさえ、田舎であろうと、都会であろうと、絶好のバードウォッチング・チャンスとなります。要は、いつも、たくさんの目を持っているということなのです。自分の知らなかった鳥の持つ美しい色彩、声に感動し、また、それを知ること、知識が少しずつ増えてゆく喜びは、まるで、カードゲームの神経衰弱でカードを当てた時のようです。そして、何よりも、うれしいのは、今まで気づかなかったものに目を向けられることです。出会っても知らない顔をして通りすぎたり、気づかなかったりしていた鳥たちが、自分の周りにどれほどいたことでしょうか。

今年の夏から、約10か月間、アラスカへ留学します。バードウォッチングのみならず、広い意味での「誰にでもできて、手軽で、身近なウォッチング」の枠を、千島列島を渡り、アリューシャン列島をとびこえ、CaseyのいるSand Pointもすぎ、アラスカはフェアバンクスにまで広げたいと思っています。

国際交流クラブに入って3年になりますが、その間、様々な国の人と知り合いました。そして、人との出会いというものが、いかに不思議で、素晴らしく、また、大切なものであるかを知りました。例えば、もう本国に帰ってしまいましたが、ペルーのマリサとの出会いの確率は、0%に近いものであったと思います。南アメリカのペルーのリマに住んでいるマリサと、日本の岐阜の芥見という知る人ぞ知る田舎に住んでいる私とが出会う機会はめったにありません。そんな人達と友達になれて、スキーやバスケットができて、話ができて、その人達の国のことに、実際に見なくても、少しでも触れることができるというのは、大変に価値のあることだと思えます。どこか違う環境に

とび込んでいけば、そこには、自分の知らない人達がいる、生活があって、考え方が異なります。自分が、知らずにすれ違っていたものに気づき、触れることのできる機会を大切にしたいと思います。これは、バードウォッチングを通して、国際交流クラブで出会った人達を通して感じたことです。

先日、NHKの英会話Iで、「オーストラリアの地図」というTopicが扱われていました。そこで、とりあげられていた地図は、上下さかさまの世界地図で、いつも下の方に位置しているオーストラリアで上になっていました。それは、おみやげ用に売っているものらしく、We are no longer down under. という、いかにもオーストラリアの人が考えそうなCommentがしてありました。そのさかさまの地図は、私の頭の中の世界も逆転させました。頭の中にこびりついたイメージが、見ようによっては、全く別のものになってしまうからです。

一度、地図をさかさまに見てみて下さい。「 $11+2=13$ 」という考えに、こりかたまってはいけないと、去年の夏、アラスカで受けたCross Cultural Communicationの授業で聞きました。確かに「 $11+2=13$ 」は正しいのですが、他にもたくさん考え方はあるということです。例えば「11時+2時は、1時」といった具合にです。

本来、これが正しいのだとか、これはこうあるべきだとかいう考えは、自分にとっても、自分が接するものや、人達にとっても、大変損になると思います。今、問題になっているいじめにしても、こりかたまった見方で人を見ることで、自分の持っている規格にあわない人が、どうしてもなく気になったり、気に入らなくて、自分の規格の狭さを棚にあげて、相手にぶつかることから起こるのではないのでしょうか。自分の考えが、いかに狭いものであるかを知るには、外へ出てみるのが一番だと思います。

どこまでできるかはわかりませんが、できるだけたくさん目の、前後左右、遠くにも、近くにも向けられる目を持って、アラスカから帰ってきたいと思っています。

最後に、気になる英語力についてですが、今年、アラスカから帰ってこられた青谷法子さんを見ました。最初はPracticalで、Day to Dayな英語を身につけられれば、それでいいと思っていましたが、考えが変わりました。Practical Englishは、耳を澄まして、人のまねをすれば、あるいは覚えさえすれば、身につくものではないのでしょうか。でも、自分の考えを、自分の思っていることを、率直に、納得のいくまで表現することは大変難しく、また、大変重要なことだと思います。法子さんは、そういった力を身につけて日本に帰ってこられました。私も、表面をなでるような、あるいは、人の話にあいづちをうつつだけの会話でなく、自分を表現する会話のできる力を身につけたいと思います。

教育学部英語英文学科3年



〈資料2〉

昭和62年度外国人留学生名簿

昭和63年1月1日現在

所属学部 研究科	氏名	性別	国籍	区分	在籍身分	指導教官 在学予定期間
教育学部	WINICHBOOT SUREEPORN	女	タイ	国費	研究生 教員研修留学生	松川禮子助教授 61. 10~63. 3
"	TANG LAI CHAN	女	マレーシア	国費	研究生 教員研修留学生	藤掛 庄市教授 61. 10~63. 3
"	SUDJIANTO	男	インド ネシア	国費	研究生 教員研修留学生	高松 政雄教授 61. 10~63. 3
"	鄭 聖 汝	女	大韓民国	国費	研究生 教員研修留学生	工藤 力男教授 61. 10~63. 3
"	RODORIGUEZ SIERA PEDRO	男	メキシコ	国費	研究生 教員研修留学生	野元世紀助教授 61. 10~63. 3
"	HORIKAWA CLARA	女	アルゼン チン	国費	研究生 教員研修留学生	松岡 三良教授 61. 10~63. 3
"	NINSUWAN SUCHITTRA	女	タイ	国費	研究生 教員研修留学生	藤掛 庄市教授 62. 10~64. 3
"	POOPARDID PORNTIP	女	タイ	国費	研究生 教員研修留学生	小川 克正教授 62. 10~64. 3
"	ABAS ZAINUDIN BIN	男	マレーシア	国費	研究生 教員研修留学生	中馬 悟郎教授 62. 10~64. 3
"	HAPATINGA SHIRLEY TEMPLONUEVO	女	フィリピン	国費	研究生 教員研修留学生	堀田 剛吉教授 62. 10~64. 3
"	OHMAR LWIN	女	ビルマ	国費	研究生 教員研修留学生	廣田則夫助教授 62. 10~64. 3
"	NWE NWE WIN	女	ビルマ	国費	研究生 教員研修留学生	尾崎浩已助教授 62. 10~64. 3
"	李 東 奇	男	大韓民国	国費	研究生 教員研修留学生	工藤 力男教授 62. 10~64. 3
"	李 奇 術	男	中華人民 共和国	国費	研究生 教員研修留学生	安東俊六助教授 62. 10~64. 3
"	張 華	女	中華人民 共和国	私費	研究生 国語国文学	浅見 徹教授 61. 10~63. 3
"	陳 敏	女	中華人民 共和国	私費	研究生 教育学(心理)	小山田隆明教授 62. 10~63. 9
"	WILLIAM AUBREY FAIRCHILD	男	アメリカ 合衆国	私費	特別聴講学生	龜山泰子助教授 61. 10~63. 9
医学研究科	孫 曉 平	男	中華人民 共和国	国費	大学院生3年次 機能系専攻	竹内 宏教授 59. 10~63. 3
"	YONGSIRI ANCHALEE	女	タイ	国費	大学院生3年次 機能系専攻	竹内 宏教授 60. 1~63. 3
"	劉 樹 林	男	中華人民 共和国	国費	大学院生2年次 形態系専攻	藪内 英子教授 60. 10~63. 3
"	KIM KAH HWI	男	マレーシア	国費	大学院生2年次 機能系専攻	竹内 宏教授 61. 1~63. 3
"	LI PILIPP NOVALES	男	フィリピン	国費	大学院生2年次 機能系専攻	竹内 宏教授 61. 1~63. 3

所属学部 研究科	氏 名	性別	国 籍	区 分	在 籍 身 分	指 導 教 官 在 学 予 定 期 間
医学研究科	刘 沛	男	中 華 人 民 国 共 和 国	国 費	大学院生1年次 内科学専攻	武藤 泰敏教授 61. 10~63. 3
"	祁 陳 鳳	女	中 華 人 民 国 共 和 国	私 費	大学院生1年次 形態系専攻	尾島 昭次教授 62. 4~66. 3
医 学 部	MIRBOD SEYED MOHAMMAD	男	イ ラ ン	国 費	研 究 生 生 学 公衆衛生学	吉川 博教授 62. 4~63. 3
"	陳 華 岳	男	中 華 人 民 国 共 和 国	国 費	研 究 生 第 1 解剖学第1	磯野日出夫教授 62. 10~64. 3
"	MERCADO LEILANI BASA	女	フィリピン	国 費	研 究 生 第 3 内科学第3	三浦 清教授 62. 10~64. 3
"	吉夫弘 ネルゾン	男	ブラジル	私 費 (県費)	研 究 生 生 学 口腔外科学	岡 伸光教授 62. 4~63. 3
"	LANPHERE CIRI	女	アメリカ 合衆国	私 費	学部学生4年次 医学	森 俊二教授 59. 4~65. 3
"	鄭 敏 和	男	大 韓 民 国	私 費	学部学生2年次 医学	近藤 真助教授 61. 4~67. 3
"	劉 新 相	男	台 湾	私 費	学部学生1年次 医学	矢入 憲二教授 62. 4~68. 3
"	劉 新 毅	男	台 湾	私 費	学部学生1年次 医学	矢入 憲二教授 62. 4~68. 3
工学研究科	YE AUNG	男	ビルマ	国 費	大学院生2年次 電子工学専攻	後藤 宗弘教授 61. 4~63. 3
"	M' BAREK ZOUHAIER	男	チュニジア	国 費	大学院生2年次 精密工学専攻	藤井 洋教授 61. 4~63. 3
"	施 敏	男	中 華 人 民 国 共 和 国	国 費	大学院生2年次 工業化学専攻	加藤 晋二教授 60. 10~63. 3
"	LOW CHO KEE	男	マレーシア	国 費	大学院生2年次 精密工学専攻	古庄純次助教授 57. 4~63. 3
"	曹 剛	男	中 華 人 民 国 共 和 国	私 費 (中政)	大学院生2年次 機械工学専攻	丸井 悦男教授 60. 10~63. 3
"	LOO SOON HUAT	男	マレーシア	国 費	大学院生1年次 精密工学専攻	武藤高義助教授 62. 4~63. 3
"	葉 建 明	男	中 華 人 民 国 共 和 国	国 費	大学院生1年次 繊維工学科	黒崎 新也教授 62. 1~63. 3
"	LEE HOE CHOON	男	マレーシア	国 費	大学院生1年次 電子工学専攻	後藤 宗弘教授 62. 4~63. 3
"	PANAIOTOU SAVVAS STEPHANOU	男	キプロス	国 費	大学院生1年次 土木工学専攻	中川 建治教授 62. 4~63. 3
工 学 部	ZULKIPLE ADNAN	男	マレーシア	国 費	研 究 生 土木工学科	森杉 壽芳教授 62. 10~64. 3
"	MAAMRIA KAMEL	男	チュニジア	国 費	研 究 生 電子情報工学科	横川 泉二教授 62. 10~64. 3
"	BASAVASWARAN KRISHNAN	男	イ ン ド	国 費	研 究 生 応用化学科	箕浦秀樹助教授 62. 10~64. 3
"	段 樹 金	男	中 華 人 民 国 共 和 国	国 費	研 究 生 土木工学科	中川 建治教授 62. 10~64. 3
"	胡 宗 躍	男	中 華 人 民 国 共 和 国	私 費 (中政)	研 究 生 土木工学科	宇野 尚雄教授 62. 10~64. 3

所属学部 研究科	氏名	性別	国籍	区分	在籍身分	指導教官 在学予定期間
工学科	KYI THEIN	男	ビルマ	私費	研究 生 機械工 学科	長谷川典彦助教授 62. 10～63. 9
"	金 春 中	男	大韓民国	私費	研究 生 機械工 学科	志水 昭史教授 62. 4～63. 3
"	FOO HEE HIANG	男	マレーシア	私費	学部学生4年次 土木工 学科	藤井文夫助教授 59. 4～63. 3
"	李 鏘 洺	男	台 湾	私費	学部学生3年次 精密工 学科	59. 4～63. 3
"	LIM LIONG CHU	男	マレーシア	私費	学部学生2年次 土木工 学科	60. 4～65. 3
"	張 允 承	男	大韓民国	私費	学部学生2年次 電子工 学科	61. 4～65. 3
"	LOW KENG CHEE	男	マレーシア	私費	学部学生2年次 電子工 学科	61. 4～65. 3
"	ZAGLULSYAH	男	インドネシア	私費 (イ政)	学部学生1年次 電子情報工 学科	寺島 隆吉講師 62. 4～66. 3
"	INDAH PERMATA	女	インドネシア	私費 (イ政)	学部学生1年次 電子情報工 学科	森下純昭助教授 62. 4～66. 3
"	TEE KIAN MENG	男	マレーシア	私費	学部学生1年次 機械工 学科	藤崎 真吾助手 62. 4～66. 3
"	TAN BOON LAY	男	マレーシア	私費	学部学生1年次 土木工 学科	藤崎 真吾助手 62. 4～66. 3
"	GOH CHUAN TAI	男	マレーシア	私費	学部学生1年次 電子情報工 学科	寺島 隆吉講師 62. 4～66. 3
農学研究科	KUWORNU KAFUI KWAKU	男	ガ ー ナ	国費	大学院生2年次 家禽畜産学専攻	田名部雄一教授 61. 1～63. 3
"	郭 沢 建	男	中華人民 共 和 国	私費 (中政)	大学院生2年次 農芸化学 専攻	長谷川 明教授 60. 10～63. 3
"	權 成 春	男	大韓民国	私費	大学院生2年次 獣医学 専攻	大橋 秀法教授 60. 10～63. 3
農学部	金 光 洙	男	大韓民国	国費	研 究 生 教員研修留学生	葛谷 泰雄教授 61. 10～63. 3
"	SANTIAGO LIBRADO AVILA	男	フィリピン	国費	研 究 生 農 芸 化 学 科	堀津 浩章教授 62. 10～64. 3
"	ADOMAKO JOHN TAWIAH	男	ガ ー ナ	国費	研 究 生 農 業 工 学 科	五十崎 恒教授 62. 10～64. 3
"	岳 大 軍	男	中華人民 共 和 国	私費 (中政)	研 究 生 農 業 工 学 科	石井 征亞教授 62. 10～63. 9
"	黄 嘉 仁	男	台 湾	私費	学部学生4年次 農 学 科	西川 浩三教授 59. 4～63. 3
"	葉 長 泰	男	台 湾	私費	学部学生2年次 家禽畜産学 科	萬代 武史講師 61. 4～65. 3
教養部	鷺見 ラウラ こずえ	女	ブラジル	私費 (県費)	研 究 生 経 済 学	神田敏英助教授 62. 4～63. 3

〈資料1〉

日本語個人授業時間割

	月	火	水	木	金
9:30 10:30 10:40	1 大野-鄭	大野-陳	田尻-張華 三宅-アドナン	河地-クララ	田中-ジューテイン
12:10 12:30	2	古田-金 (11:00 ~) 後藤-鄭 大野-クララ	大橋-カメル (11:00 ~) 三宅-陳 毛利-李	河野-リー 及川-ミルボド	後藤-ペドロ 脇田-李 北川-カメル
13:20			田中(り) 張	河野-レオン	
14:50 15:10	3	脇田-サンチャゴ	大橋-サバス 毛利-リー	初田-スリボン	
16:40	4			河地-ペドロ	

日本語時間割

	月	火	水	木	金
9:30 10:40 10:50	1 初級 神山	初級 Mr河地	初級 北洞	初級 河野	初級 北川
12:00	初級	初級 市岡 日本文化 河合	初級 Mrs河地 中級 田尻	初級 上級 河地	初級 脇田
13:20 14:50 15:10	3 初級日常会話 田尻	初級日常会話 河合	* Quiz	初級日常会話 河地	上級 日本映画 田尻
16:40	4				中級 田尻

■ 編集後記

明けましておめでとうございます。年末のあわただしさの中、家の大掃除をしておもちつきをし、おせち料理を作って新年を迎えると、毎年のことながらあのすがすがしいお正月の気分になるから不思議です。ああやっぱりこれは日本のお正月、などとったりします。と言っても一度も海外で新年など迎えたこともない私なのですが……。とにかくお正月はいいものです。特にこういう節目のようなものでもない、ずるずるとなんとなく一年が終わってしまいそうな私には、ただ最近は時のたつのがあまりにも早すぎて、あせりのようなものを感じるお正月ではあるのですけれども……。

さて今回は、昨年十月に岐阜大学に来た新しい留学生の顔ぶれと、国際交流室の新しい授業の時間割をのせました。また、いつものことながら、いくつかの記事は季節はずれになってしまいましたが、あの暑かった昨年の夏を思い出して読んでみてください。少しは暖かく感じられるでしょうか。それともかえって寒く感じられるでしょうか？ (Y. T)

発行 岐阜大学国際交流室

岐阜市柳戸1番1

電話(0582)30-1111 内線2380

編集 高橋 弘・田尻由紀子